



健康的な天然木材の床

フローリング・ニュース

発行所：一般社団法人日本フローリング工業会
編集責任者：広報法務委員長 石本勝範

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-7-12 林友ビル 6F
TEL 03-3868-0971 FAX 03-3868-0972 <http://www.j-flooring.jp/>

フローリング張り標準仕様書改正案が出来上がる（技術委員会）

フローリング張り標準仕様書の改正案を作成するに当たって、工業会の技術委員会の中に梅野委員長、森副委員長ほか技術委員会メンバー、懇話会メンバー、塗料メーカーの専門家など27名で構成されるフローリング張り標準仕様書改正委員会を組織し、4回に亘り検討した。

フローリング張り標準仕様書は、昭和48年に発刊以来、10回の改正を重ね、この間、国土交通省の公共建築工事標準仕様書にその内容が反映されるほか、林野庁はじめ建築関係者などに幅広く利用されてきた。



＝挨拶する梅野技術委員長＝

平成27年版については、平成22年版が発行されて以降、生活者の嗜好の多様化、建築様式の変化、木材資源の位置づけや国産材化の進展等を踏まえ、平成25年11月に「フローリングのJAS規格」が改正されたので、JAS改正と今後重要課題となるメンテナンス関連を重点的な課題として、乾式工法、床暖房用フローリングの工法、メンテナンス、体育館用フローリングの工法の記述内容を大幅に改正した。

この平成27年版の発行は、平成27年3月1日の予定で、前回同様東京・大阪・名古屋の三都で説明会が予定されています。



東京・後楽にある林友ビルで開催された第4回フローリング張り仕様書改正委員会
＝12月5日午後4時





大阪でフローリング工事標準検査表講習会開催（関西支部）

フローリングジェネラル証明証 83名に交付

（一社）日本フローリング工業会近畿支部は、関西フローリング協会後援のもと11月5日（水）に大阪木材会館で、フローリング工事標準検査表講習会を開催した。

久津輪会長が「東京に続いて2回目、熱気は東京を凌いでいる。本システムを啓蒙し現場に拡げてほしい」とエールを送り、主催者の千葉関西支部長が「フローリングは内装の要です。標準検査表の施工要領に基づいてチェックリストを作成し、施主・施工者に提出して我々の仕事ぶりを認識してもらおう。施工後の無駄な出費を省くとともに下請けとしての信用・信頼を得ることができます。誇りを持って業界のレベルアップを図ってほしい」と述べ、講習会を開催した。

フローリング業界最大の課題は施工後のクレーム。責任も所在が不明なケースが多く補修費用の大半を会員企業が負担しているのが現実。その改善に向けて工業会は平成24年度総会においてフローリング工事標準検査表を策定、講習会で周知徹底を図った。講習会の参加者83名にはフローリングジェネラル証明証が交付された。

新規入会会員、桑原木材株式会社の紹介

桑原木材(株)は7月理事会で正会員として入会が認められました。

同社（桑原教行社長、従業員100人）は本社が愛知県犬山市にあって、木材の生産・加工から住宅の施工、販売に至るまで生販一貫体制を確立し、人と自然の調和を継続しながら活動を営んでいくことのできる循環社会の実現に、木材を通じて貢献していくことを目標としている木材会社で、もちろんフローリングも生産供給しています。



木質フローアーに関連するトピックス

職人不足への危機感高まる

大工・職人不足が叫ばれるなかで、職業訓練校などで基本的な技術を取得して新規に参入した大工は2013年度に680人程度、国勢調査をもとに2015年新規入職する24歳以下の大工の人数は年間約1000人という推定値が、全国木造住宅生産体制推進局議会木造技能者育成検討委員会が取りまとめた「大工技能者育成に向けた提言」のなかで示されている。

この数字は、2010年の若年大工数が5年で半減するというもので、「実質的には、新規入職者は年間1000人と外国人実習生400人程度ではないか。外国人実習生は期間が限られているので、将来、大工は5万人程度まで減少してしまう。」という危機感がある。昨年は消費税の駆け込み需要で住宅着工が100万戸に迫る勢いとなったことで、夏ごろから大工不足が顕在化、東北の復興需要も加わり、工事遅延が続発するなど受注が取れても施工が追い付かないという事態になった。

2010年の国勢調査によると大工は約40万人、これは2005年の約54万人から5年間で14万人が減少したことになる。2010年の新築木造住宅46万戸に40万人の大工がリフォームなども含めて対応していたことになる。

新規入職者数が少ないことに加えて、離職者が多いのは、年齢とともに技能・技術が向上し、それを評価する仕組みがないことが一因ともいわれている。

大工の世界では1人親方という言葉がある。これは大工が個人事業主となり、実際の業務は労働者なのに、法的には経営者として扱われることで、労働基準法の適用を受けないで休日、残業などの枠ではなく、出来高で評価されることになっている。

こうした現状に対して社員大工化を図ることで差別化を進めようという動きや、訓練校の枠を拡大していこうとした動きもあるが、住宅市場の縮小よりも大工不足による施工力不足のスピードのほうが速いとの見方もある。

実際には施工の合理化、工法開発なども行われていくことで単純には計算できないが、大工5万人で年間に施行できる住宅はどれほどなのか、いかに施行者不足が深刻化ということが分かる。

このような分析をもとに久津輪会長が施工流通部会総会で工業会あげて検討すべき課題であると危機感を表明した。

平成26年度も精力的に活動した木質フローリング検討懇話会

平成26年度の前半は8種類の施工方法ごとの推奨釘を検討

釘は施工を受注した会員の職人が自分の判断で調達する習慣があり、釘の長さによっては、フローリング、捨て貼り合板、パーティクルボードの接着不足が心配されることから、安心施工を推進するため8種類の施工方法別の釘の長さを検討した。

これは、懇話会の成果として技術委員会で改正作業が進められているフローリング張り標準仕様書の参考資料編に掲載されることになった。

平成26年度の後半はフローリング張り標準仕様書の改正作業に参加

技術委員会に設置されたフローリング張り標準仕様書改正委員会に懇話会のメンバー全員が参加し、標準仕様書全9章のうち第1章総則をビスマカンパニー(株)の外瀬取締役、第8章のメンテナンス、第9章の体育館用フローリングの工法を三勇床工事(株)の森社長が担当者となり原案を作成して、懇話会として技術委員会に提出した。

なお、メンテナンスについては、住宅用と体育館用の2種類があり、今回の標準仕様書の最重要部分として、懇話会が検討したものである。

大阪で11月に開催されたフローリング工事標準検査表講習会に参加

11月5日に大阪で開催されたフローリング工事標準検査表講習会に森座長、田伏副座長、外瀬委員、日比野専務理事4人が東京から参加した。外瀬委員の「フローリング工事標準検査表チェック要領について」の説明を森座長、田伏副座長がサポートするかたちで、講習会に協力した。

また、講習会で使用したフローリング工事標準検査表については、フローリング工事標準検査表の参考資料編に掲載されることになった。

理事会報告

平成26年7月10日(木)

東京オリンピックの施設を木造で

久津輪会長の挨拶

この3月で需要の嵐が過ぎ去り消費増税後の反動減が確かなものになってきた。将来的には着工件数も減っていくだろう。今面白い話題は何かというとCLT(直行集成材)。内装に携わる我々には一見関係ないようだが、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けてこのCLTが構造に使われれば、内装は必ず木質フローリングになるだろう。需要は出てくるので、技術的に確かなものになるよう底辺を支えないといけない。

主な理事会議論

木質フローリング検討懇話会の検討結果として、フローリング張り標準仕様書改正に向け、住宅などのメンテナンス、体育館等のスポーツフロアのメンテナンスに分けて施主への維持管理を促す内容を取りまとめたことを報告。当日実施した林野庁と国土交通省への陳情活動も報告した。

東京・後楽にある林友ビルで開催された第3回理事会
=12月12日午後2時

平成26年12月12日(金)

新たな標準仕様書発行などを承認

12月理事会には新たな標準仕様書の発行の他、賛助会員に2社、副会長を5人体制にすることなど重要な決定が行われた。

- ①平成22年版を全面改正した平成27年版フローリング張り標準仕様書を平成27年3月1日に発行するとともに、平成27年度に東京、大阪、名古屋において同仕様書説明会を開催することになった。
- ②鈴与マテリアル(株)と(株)東京工営の賛助会員入会が承認された。
- ③平成27年度から副会長が4人から5人となり、九州支部長が副会長を兼務することになった。



九州支部だより

平川和彦 九州支部（株式会社平川木材工業）

九州支部長の平川で御座います。
去る2月13日、14日に九州支部会を、沖縄県那覇市にて開催致しました。

九州支部内生産部会2社、施工流通部会3社の計5社であり、各社異なる県に在るので、様々な場所で開催しております。

今回は以前より要望の強かった、沖縄で開催することにしました。特に2月の沖縄は、ジャイアンツ・ファイターズをはじめ、プロ野球のキャンプが行われており、プロ野球ファンなら、たまらない状況だと思えます。

又、今回の支部会には、わざわざ、関東より川鍋施工流通部会長、中部より佐藤生産部副会長にお越し頂き、九州のメンバーとの情報交換、親睦を深めさせていただきました。

沖縄は初めての方もいらっやって株式会社東商会玉城社長に、手配していただいた沖縄料理専門店で美味しい料理に舌鼓を打ち、泡盛を飲み、心地よい酔いで夜も更けた次第です。

九州支部は5社しかなく、又、活動を行っていない為、メリットを見出せず、誠に申し訳なく思っております。このままでは支部存続の危機と捉え、工業会加盟の意義を見出さなければならぬと考えております。



ひとこと

平川和彦 九州支部（株式会社平川木材工業）

2014年の福岡は、大河ドラマ「軍師官兵衛」に沸いた1年でした。博多駅や福岡空港で、黒田官兵衛関連のグッズやポスターを見かけた方も多かったでしょう。

私は決して歴史関連の話題に強くはありません。しかしこの1年ドラマを追っていくと、官兵衛が単に軍師として活躍しただけでなく、同時代の他の武将とは異なる多彩な能力と人間愛を持っていたことがよく分かり、大変興味深いものでした。

さて、官兵衛の残した名言に「夏の火鉢、早(ひでり)の傘」があります。夏の火鉢は暑いから用がないように、日照りのときの傘も、使えない。ところが、底冷えする冬には火鉢が、土砂降りの雨になれば傘が役立つわけです。人間もそれと同じで、ある局面ではまったく役に立たなくても、別の局面になればとても役立つ、その才能を発揮することがある、ということです。官兵衛は息子である長政に対し「お前は夏に火鉢を出したり、日照りの時に雨傘を差すのか？」と問いかけて、家臣たちが適材適所で働けるよう気を配れと忠告したそうです。

多くの戦国武将が滅んでいく中、黒田家は幕末まで福岡藩を守り、現代まで続く福岡・博多の基を築きました。その祖となった黒田官兵衛の多くの業績は、決して軍師としての才能によるものだけでなく、周囲への鋭い観察眼と人使いの上手さがあったのだと感じさせるエピソードです。

人間は性格も能力も千差万別。場面と時によって輝きも違って来るもので、そこを見てあげなければならないというわけです。現代に生きている私たちにとっても、ストレートに伝わります。

● 広報法務委員連絡先

委員長	石本 勝範	06-6538-7221
委員	松原 由典	0123-72-1223
委員	矢野 伸和	047-353-2100
委員	佐藤 正明	0547-45-2174
委員	當舎 弘造	072-276-1600

● 告知板

3月5日(木) …… 平成27年度総会及び理事会

● 会員動向 平成26年12月25日時点

正会員	55社
賛助会員	21社
合計	76社

会員会社の広告

掲載したい会員会社の方は、
広報法務委員までご連絡をお願い
します。

編集後記

今年の前半は木材利用ポイント事業もありましたが、消費税増税後の反動減の影響が12月の住宅着工や消費活動まで影響し、会員のフローリング生産活動や施工の受注量にも大きな影響がありました。また、施工現場では一年を通じて職人不足が響き大変でした。

さらに、円安の影響で輸入しているフローリング用の広葉樹が高くなり、経営に大きく影響しました。このように会員を巡る状況が厳しいことから、フローリングニュースの編集者としては少しでも役に立てる紙面の編集になるよう努めていきます。

